

58期リレーエッセイ

一つ一つの事件は依頼者の人生の一大事。
力になる機会を与えられて、やりがいと責任と。

会員

島蘭 佐紀



今の新鮮な気持ち

私が弁護士になって、4か月が経ちました。失敗ばかりの毎日で、はじめにこのエッセイの依頼を受けた時は、「何も書けるようなことはしていないし…」と躊躇しました。けれども、考えてみれば、58期の私たちに立派なことを書くことが求められているはずもなく、今の新鮮な気持ちを書けばよいのだろうと思い直しました。そのようなわけで、今だからこそ感じている、新鮮な気持ちを書いてみたいと思います。

弁護士になった理由

私は、大学卒業後、わずか1年4か月ですが、会社で仕事をしていました。会社では、比較的恵まれた環境にありましたが、仕事にあまりやりがいや喜びを感じることができませんでした。そこで、ふと立ち止まって、自分は何に喜びを感じるのだろうかと考えてみた時に、本当に困っている人の力になることができれば、喜びを感じるのではないかと思いました。他にも様々な理由はありましたが、そんな単純な気持ちをひとつの原動力として、弁護士を目指しました。

実際に弁護士になってみて

そして、今、実際に弁護士になってみて、私は、この道を選んでよかったと、心から思っています。それは、日々仕事にやりがいや喜びを感じることができているからです。

私が今扱っている事件は、離婚や遺産分割等の家事事件、自己破産、損害賠償請求等の一般民事事件、労災事件、国選事件、難民の事件などです。そうした一つ一つの事件の中で、何らかの問題を抱えて困っている依頼者が目の前にいて、専門家としての援助が求められています。一つ一つの事件は、依頼者の人生の

中の一大事です。そうした場面で、力になる機会を与えられていることに、大きなやりがいを感じています。

特に、実際に依頼者から感謝していただいた時の喜びは、大きなものです。初めての国選事件では、被告人と何度も話をする中で、被告人が反省を深めていく過程に立ち会うことができました。そして、法廷の日に、被告人が、「先生のことは一生忘れません」と言ってくれた時は、とても嬉しい思いでした。

また、弁護士の仕事は、自分で自分の道を選び取っていける点も、素晴らしいと感じています。

会社の中では、面接等の機会に希望を出すことはできますが、多くの場合、自分の意志で自分の道を決めることは難しいと感じていました。これに対して、弁護士の仕事では、非常に多くの選択肢があり、自分で自分が進む道を決めていくことができます。もちろん、様々な制約はありますが、これだけの選択が可能であること自体、素晴らしいことだと思います。

弁護士の仕事の厳しさ

このように、喜びを感じることも多い一方で、弁護士の仕事の厳しさ、責任の重さも実感しています。

弁護士の仕事は、結局、結果を出さなければならず、個々の事件が依頼者にとっての一大事であるだけに、その分責任は重く感じています。その重い責任を果たすためには、弁護士としての実力が必要だと実感していますが、今の自分には足りないことばかりです。

あせらず一步一步

このように、弁護士の仕事のやりがいを感じつつも、自分の至らなさを感じてばかりの日々ですが、あせらず一步一步、前進できればと思っています。